

peritoneal sclerosis ; EPS) を合併しなかったことが、唯一の救いであった。

3

HHD (46~54 歳)

1) HHD 導入時

透析導入 20 年目における無尿状態での週 3 回 4 時間の HD にて、これまで経験したことのない身体的および精神的な苦痛を負った。すなわち、残存腎機能が十分にある HD 時の病態との大きな違いを“実感”した。そのような状況のなか、週 1 回の HHD 導入トレーニング (4 時間透析) が実施された。これは週 4 回の透析治療に相当する。このわずか 1 回の付加的治療は、体調を劇的に改善させ精神的ストレスを低減させることに非常に有効であることを“実感”した。

2) 透析回数の増加

HHD 期間は 7 年 4 カ月 21 日間 (2,699 日) であった。この期間の HHD 施行回数は、国内外の施設での臨時透析を除いて 2,425 回であり、1.11 日に 1 回のペースで自宅にて透析治療が実施された。HHD 導入当初、1 日ごと (週 3.5 回) の透析治療であったが、2 カ月後には週 6 回の頻回標準時間 HD へ移行し、さらに 9 カ月後には週 7 回の夜間睡眠中 HD へと透析回数が増加し、治療形態が変化した。

3) HHD 治療期間と諸数値の改善

HHD 治療期間が延びるにつれて、透析 1 回当たりの平均体重減少量は 2.5 kg から 1.0 kg へと減じ、それに伴って平均除水速度も 0.59 L/hr から 0.25 L/hr へと減少した。また、血流量が 250 mL/min から 180 mL/min へと減少したことから、在宅体外循環における心血管系への負荷の緩和に効果的であると思われた。本症例における stdKt/V は、ダイアライザの膜面積および血流量が減少したにもかかわらず、週当たりの透析回数の増加に伴って、2.65、4.18 そして 4.52 へと増加した。ダイアライザの膜面積と血流量を低減させた理由は、透析時間の増加を考慮して、透析前後の血清リン値が正常範囲内に収まることを経験的に推測したことによる。また、透析回数に重みづけがなされている hemodialysis product (HDP)⁴⁾ は 52、156 そして 196 へと大きく増加した⁵⁾。

【用語解説】

• hemodialysis product (HDP)

Scribner と Oreopoulos によって提唱された、血液透析患者の幸福感や生活の質などを推定する透析量の評価指標のこと。(週当たりの透析

回数)²×(透析 1 回当たりの治療時間) で算出される。この概念によれば、適正な値を 70 以上としている。